

会議等名	令和2年第1回海老名市外部評価委員会
日時	令和2年1月28日(火) 10:00~12:00
場所	海老名市役所 7階 702会議室
出席者	外部評価委員：田中委員長、城向副委員長、大島副委員長、長谷川委員、高橋委員、菅生委員、山田委員、霜田委員、杉山委員、谷村委員、西海委員(以上11名出席) 欠席：武井委員 事務局：川崎主幹、笠本
<p>開会 (川崎係長)</p> <p>あいさつ 田中委員長</p> <p>議題(進行 田中委員長)</p> <p>(1) 令和2年度行政評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 資料に基づき、事務局より概要説明 ○ ヒアリング等評価方法について、意見交換 <p>質疑応答・意見交換</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新規事業となる13事業については、ヒアリングを行うこととしてはどうか(外部評価委員) ・ グループごとにヒアリングの有無を検討するのが良いのではないかと。効率的な方法を各グループで検討しながら実施するのが良い。(外部評価委員) ・ 令和元年度は原則ヒアリングを行わないこととしたが、ヒアリングを行うことで、職員と市民が直接事業について話す場を設けるのは有益である。(外部評価委員) ・ 調書が改善されていないなか、評価方法の見直しを行っても効果的ではないのではないかと(外部評価委員) ・ 令和2年度の評価については今年度と同様の評価調書での評価となる。令和3年度以降については、今後検討を行っていくが、現状の調書において、どのような箇所が評価しやすい・しにくいと感じるのか具体的にご教示いただきたい。(事務局) <ul style="list-style-type: none"> → 基本的なところで挙げれば、文字の大きさが極端に小さい、文章が枠に収まっていない調書は、内容以前に非常に読みづらい。(外部評価委員) → 過年度の記載内容をそのままコピーしている場合、どの取り組みを当該年度に重点的に行っているのかが見えてこない。(外部評価委員) → 調書の冒頭に目的や対象者を記入する欄があり、評価する際には、そこを念頭に置き、事業内容を見ていくが、目的や対象に対して、どのように事業を行ったのかという視点で記入されていると実施内容がわかりやすい。そうでない場合に、実施内容が目的や対象に対してどのような効果があったのかが見えてこない。(外部評価委員) ・ 過年度評価との比較が難しい場面が多かった。(外部評価委員) 	

- ・ ヒアリング項目として、過年度評価を受けてどのようなアクションをとったのかを入れてはどうか。(外部評価委員)
- ・ ヒアリングを効果的に実施するためは、事業概要の説明は省きたい。(外部評価委員)
- ・ 令和元年度・2年度の評価対象事業は、平成26年度から平成28年度に『見直し〇〇』評価がなされた事業が中心である。そして、令和元年度は外部評価後に各課の今後の対応についてまとめており、令和2年度評価後にも同様に取りまとめるものと考えられる。そこで、2か年の評価及び評価後の対応を基に、外部評価結果の報告に加え、別途市長へ外部評価について報告を行ってはどうか。(外部評価委員)
 - 検討が必要であるため、この場での回答は難しい。(事務局)

(2) その他

- 令和3年度以降の行政評価について、庁内検討内容を説明。
 - ・ 調書や評価方法について、決定稿に対する意見照会ではなく、(案)段階で外部評価委員からの意見を聞いてもらいたい。外部評価委員の視点からの意見を反映し、より効果的な評価調書・方法となるようにすすめていきたい。(外部評価委員)
 - 部内での検討は行うが、委員のみなさまの意見も活かし、評価方法について、検討していきたい。(事務局)
- 第7期外部評価委員へのお礼(事務局より)

閉 会

以 上